

朝日山地における天然生林推進に向けて

6月14日（火）、山形大学農学部、菊池准教授及び学生7名の協力のもと、庄内森林管理署大鳥森林事務所管内116林班い小班において、植生調査を実施しました。

この取組みは、朝日山地森林生態系保護地域内に存在する人工林について、天然生林に誘導する手法を考察するための基礎データ収集作業となります。

調査方法は、平成23年度に同箇所で開催した委託調査方法を継承し、10m×10mのプロット2箇所内における、



旺盛な植生の中、懸命に調査中

胸高直径4cm未満、樹高1.5m以上の植生を全て調査し、一本いっぽんにナンバリングする根気のいるものです。

菊池准教授監修のもと、学生さん達は、小雨の中、ずぶ濡れになりながら懸命に作業に集中され、おかげで基礎となるデータが整いました。



植生の特徴を菊池准教授から指示

今後、当箇所において、下草刈払いや、つる切り作業の更新補助作業とともに、小学生を対象に行う森林環境教育において、山取苗、実生苗の植栽を併せて実施し、今後5年間、モニタリングを継続、植生の変化（生長量、発現個体等）についてデータを蓄積していきます。

この調査は、今後毎年度実施する予定であり、山形大学との緊密な連携により意義のある取組みにしていきたいと思



測竿を用いた自撮りもテスト（地上高約8m）